

第2回角田市上下水道事業運営審議会会議記録

日時：令和7年12月22日（月）午後1時30分～午後2時30分

場所：角田市役所301会議室

出席委員：荒木委員、中嶋委員、古積委員、島津委員、高橋委員、鈴木（文）委員、
鈴木（淑）委員、笹木委員 以上8名

市出席者：角田市長 黒須 貫

事務局：上下水道事業所長、参事兼技術次長、事務次長、主幹、経営管理係長、経営管理係
主事

傍聴者：なし

○内容

第2回審議会

4 議事

事務局より次の内容について説明が行われた。

- (1) 水道事業アセットマネジメント及び経営戦略について
- (2) その他

説明後、会長より委員へ質問、意見等について諮られ、以下のとおり受け答えが行われました。

会長 基準耐用の場合の金額について、50億円程度から48億円、40億円あるが、その中の一定割合20%を更新対象施設から除外というものは何か。100年に耐用年数が延びるということにおいて、20%の減額が見込まれるというそういう意味でいいか。

事務局 腐食に強いしものになっており、それらの一定割合が20%ある意味。

会長 いわゆる企業債の残高は当然規模によって変わってくるが、返済というか弁済の期間とか、タイミングというのはどのようになるのか。

事務局 基本的に事業債に関しましては、40年の返済っていうことになっている。その中で5年間を据え置いて35年で返している場合、返す場合と最初から40年で返すことを選択できるが、基本的には5年間据え置いて35年で返済というところが一般的な返し方になっている。

会長 金額が大きければ、1年単位も当然金が多く返済となり、収入から考えなきゃいけないと。それは補助金も含めてということか。

- 事務局 そのようになる。補足として、お金を借りたときに例えば 40 年で返す考え方について、使用できる耐用年数が 40 年に対してお金を返す期間が 30 年だとすると、返す方の金額が上がってしまうので、実際同じにするように法定耐用年数が 40 年であれば、お金を返す期間も 40 年にすればそこは経営上成り立つということで、仕組みとして考えられた設定である。
- 会長 鋳鉄管とダクタイル鋳鉄管はどのように違うのか。
- 事務局 鋳鉄管とダクタイルについて、基本的には同じものだが、ダクタイル成分が入ることによってより鋳鉄管が強くなった。鋳鉄管の中にも最初は A 型、これが多分当初の主流だったが、耐震性がないということで K 型に変わった。一番新しいのは GX 管であり、自己修復もできるようになっている。
- 会長 法定耐用年数と基準対応年数さらに角田市独自の耐用年数というふうなことが出てきているが、審議会の中で、どちらで更新すればいいのか問われて、安い方がいいのだろうが、何か国の基準、あるいは更新については、角田市独自の更新基準を設けて、更新してよいなど、何か決まり事があるのか。
- 事務局 厚生労働省で出している平成 25 年 6 月の管路更新の基準というのは一応あるが、はあくまで厚生労働省の基準で、簡単に言えば全国規模での一般的な基準ということになっており、通常の水道管だと 40 年が普通の基準になっているが、実際は 40 年で壊れずに、1.5 倍以上、2 倍は持つところもある。
- 土質や電車の通過する近くなど、要素が色々あり、選定することが多い。角田市の場合、例えば、昔は K 型が一番多く使われており、仕切弁とか部分的なものは壊れることはあるが、管自体にひびが入ることなどは少ないことから、例えば 70 年、80 年でも大丈夫ではないかという提案になる。
- 会長 説明としては、角田市独自の更新基準で行い、その他、部分的に壊れたところなどは、その都度行うということで理解した。更新を今のような基準で行った場合に、水道料金が数倍となるということの試算だけれども、今の料金からは上げないと当然経営が成り立たない。企業も使うものだが、50 年後にはそういう状況になるというふうに見てよいか。
- 事務局 推計として、年 2% の経済成長と 3% の賃金上昇というところで、やはりインフレが進んでいくというようなことが前提になっている。2% が 50 年間も続いていったとした場合に 50 年後、大きく物価が上がっているとなってくると今の 10 億円の価値は 50 年後には 27 億円くらいないと同じ価値にならない。金額に関しては、何年後は何倍くらいになってくるといことはどうしても出てくるかと考えている。但し、直近の工事費用が多くかかっている部分があるので、それら工事や更新費用を捻出するとすると、その段階である程度の料金の引き上げということは、現実的に考えなければいけない。
- 会長 何年周期か、スパンで料金を見直す時期が来るというふうに理解すべきか。

- 事務局 計画としては、5年ごとに見直すということは明確に表示しているが、どのくらい上げる必要があるか、経営戦略で提示する方針。
- 委員 水道料金は現在と比較すると数倍となるというのは50年後を指しているが、そこまでの間については少しリーズナブルな形での値上げみたいな見直しをするということか。
- 事務局 現在の資金保有残高が大体6億円程度であり減少している。現在の水道料金の水準が高いのか低いのかというふうになってきたとき、現行の水道料金では賄うことが難しい状況になってきているというのが現実である。健全な状態にするのか、2割は老朽化のままや5割は老朽化のままというところを、どの程度費用をかけるという3択になる。当然、健全な状態にしたいが、一方でかかる費用として今の受益者が本来負担すべきものだとは思っているので、現在の受益者がそれをどこまで受け入れられるのかということをもともと、問う必要がある。5割の老朽化というのは、安全上問題ないんだという判断に基づいたものであり、受益者は妥当だと考えると思われる。但し、50年後となれば、100%健全な状態を求められると考える。今負担しない人から見たら判断しやすいと思うが、将来負担する人がいる以上、選択肢が最後1択になると考える。
- 委員 そこはあまり曖昧にしない方がよいと考える。6億の余剰金みたいなのが仮にあったとしても、年1億ずつ減少すると、6年後にゼロになるわけで、今工事の内容を決めて、6年後は上がるのが決まることから、そこは曖昧にしない方がよいと素直に考える。選択肢が結果として、受益者が負うべき負担から考えると、5割の老朽化を選ぶというふうに皆さんがなるのではないかというような、正しくそこを表現すればよいと思う。
- 事務局 実際に6年後、上げなければいけないラインがどのぐらいになるのかを見せながら、そうすると正しい判断がつかんんじゃないかと思う。
- 委員 この件について精査して事業費の算定を行い、経営戦略の方で明確にしたい。先が長い話であり、人口の減少がさらに多いかもしれないとか、収入が少なくなるということもある中で、企業債がどんどん増えていくっていうところは、実情はそうだと思うが、難しい問題だと考える。5年ごとに見直しをされるということであるが、3つの案の中、角田市で全部負担するのではなくて、例えばよくある民間の事業や資金を活用するというのも出来るのかと思う。全部やろうとするところが一番いいところだと思うが、少しこのアンバランスなところをもう少し選択肢を広げられて、戦略策定として民間や、もしくは例えば他の市町村との広域連携など、そういった可能性について、素人としての意見であるが、その辺ができないのかなというところを感じた。
- 事務局 どうしても先行き不安なままスタートせざるを得ない状況だと思うが、だからこそ、もうちょっとその今後の事業について、25年50年つくらなくても、例え

ば 10 年 15 年という短いスパンで切ってこういうことができるというところをもう少し模索した上で、戦略策定されるというのも、スケジュールの都合があると思うが、考えられる点ではないか。

事務局 今のご提言について、例えば、町と一緒に連携していることについて、県でも考えてないようである。ただ、同じ業務である部分もあり、例えば同じ業務と一緒にやれば経費が少し安価になるのではという考え方で、衛星を使った漏水調査に角田市も 1 回目に参加をしている。何か事業をやるときに他の市町と一緒にいき、経費節減とか効率性を上げる取り組みを県では考えており、有益な場合にはこちらも参加させてもらう考えを持っている。

委員 素人として、このような課題などなかなか理解できない部分も多いが、一番大事にすべきことは何なのかだと思う。他県で事故があり、トラックが落ちてそのまま人が亡くなっている。そのようなことが絶対に起きないように、まずはしなければいけないが、角田市の基準など、そういうものが大丈夫なのか気になる。費用を抑えた代償という意味で。まずはとにかく、水道は直接体に入るものであり、そこが一番大事なことであり、その調整だと思う。しっかりやってもらい、人口が減ることについてはどうにもならない。それによって、料金が上がってしまうというのもしょうがない。ただ、それに必要な経費はかけなければならぬ。

会長 他県での陥没事故について、当然水道も漏水すればね、あのような陥没が起きかねないので、絶対に更新が必要なものは行うべきである。

事務局 実情をお話すると。仙南広域水道から来た水を一度、山の上にある配水池で受ける。そこから各家庭へ配水管を通じて配水するところであり、人間の体で例えると、心臓のようなものである。心臓から血管を通じて血液を行き渡らせる血管というのが配水管。配水管の更新をしなければならないのは当然のことだが、心臓に当たる配水池でタンクが壊れた場合、大変なことになる。現在、大きなタンクを 2 つ使っており、タンクの耐震性というのが求められることから、1 つのタンクを検査して、安全を確認した。また、令和 8 年度にも新年度の予算要求をして、それを議会の方でも認めていただいたらその予算を使って令和 8 年度に耐震性について安全かどうかの検査をするということで、安全性を確保しなければならないものについてはその都度、お金をかけてでもやっていくというような取り組みを行っている最中である。

委員 要は料金をどうするかについて、最終的に行き着くと考える。50 年間の今回のこの計画、予測について過去にも作成しているのか。例えば 50 年前もしくは 10 年前でも。

事務局 直近で考えると、水道事業経営戦略がある。令和 2 年の 3 月に策定したものを公表したという部分で、財政計画は 10 年単位のものだったので 10 年では作っ

ているが、それより長いものになると、ある程度の精度を持って作るというのは今回が初めてとなる。過去に計画された数字に対して実際の実額というか決算額はどうかということと比較するというのは必要だと思う。確認をした上で提示する。

会長 以上で審議会は終了となる。次回、アセットマネジメント計画の素案と経営戦略の素案の方を出させていただきたいと考えている。未定ではあるが、パブリックコメント等々を考えると2月中には開催をさせていただく。